

## 統合に向けて準備すべきこと（案：小中学校再編委員会で検討を進める）

## ＜組織づくり＞

- (1) 統合に向けた組織を作り、各校ごとに準備を進める。
  - ・小中学校再編委員会（教育計画、施設・設備・備品、学校運営、閉校・開校準備などの内容で、PTA代表・地域代表の方にも入っていただく）
- (2) 他の部・課との連携を図る。
  - ① 企画課を中心に、統合によって空いた学校施設の活用方法を検討する。→ 地域の意見を参考にしながら公共施設等総合管理計画作成
  - ② 地域振興課と連携して、通学方法を整備する。（路線・ダイヤ改正など）
  - ③ 産業振興課と連携して、地域学習や「サミット」の充実を図る。
  - ④ スクールバスの購入と運転手確保 等々

## ＜要検討事項＞

## (3) 通学方法について

- ① 両島の生徒が利用する船については、町が定期券を渡す。自宅から港までは徒歩または自転車とし、師崎から統合中学校まではスクールバスを利用する。
- ② 低学年児童はスクールバス通学、自宅から学校までの距離が2 km以上の小学生は、通学団単位でスクールバス等を利用する。
- ③ 自宅から中学校までの距離が2 km以上6 km以内の生徒は自転車通学、6 kmを超える生徒は定期バスまたはスクールバスを利用する。（定期バスの増便、バス停整備）
- ④ 通学に関しては安全性を最優先とし、通学方法については個々に対応する。③についても単に距離だけでなく、通学路の状況や安全性を考慮する。
- ⑤ 定期バスのルートやダイヤを検討するとともに、スクールバス購入の準備をする。
- ⑥ バス定期券や回数券活用の検討をする。

## (4) 行事等で保護者が学校へ集まるケースについて

- ① 駐車場を確保する。
- ② 行事については、自家用車または定期バスの一日乗車券を使う。両島の懇談会は、それぞれの島で開催し、他の行事について保護者負担を軽減する手立てを工夫する。

## (5) 警報が出たときの対応について

- ① 遠隔授業の施設・備品整備を進める。
- ② 暴風警報が発表された場合は、臨時休校で全校生徒が登校しない。
- ③ 波浪警報が出ている、または出ていなくても海が荒れてしまっているとき、両島の生徒は自宅で遠隔授業を受ける。（霧発生時も同様）

## (6) けがや急病に対して

- ・学校で体調が悪くなってしまった場合、基本的には保護者にお迎えを求める（両島生徒は師崎港まで）が、保護者がすぐに対応できない場合（両島生徒はこれに該当）は、学校から病院へ搬送し、後ほど保護者と合流する。

## (7) 登校してから船が欠航になってしまった場合

- ・暴風警報発表が心配されるときは事前に連絡が入るので、早めに下校する。突然の地震等発生の場合に備えて、対応方法を準備する。

<各種団体との連携案>

(8) 郷土学習の教材として文化財や歴史的遺産、各地区の名所などを活用

- ・文化財等の整備を進めるとともに、文化財保護委員会との連携を図り、現地で観光ボランティアの説明を受けられるようにする。

(9) 学校祭などの場面での地域交流

- ・学校祭で、町文化協会との連携を図り、芸能発表や展示などに参加していただく。

(10) 部活動について

① 朝の練習は、基本的には行わない。

② 午後の練習終了後、スクールバスに乗って師崎に向かう。(夏の一番遅い時期で、練習終了は17時45分、師崎発18時30分の船に乗船する)

③ 休日の練習は、船の定期券と定期バスの定期券または回数券を利用する。

④ 休日の部活動を補完する組織づくりを進める。(スポーツ協会各種目団体との連携)

- ・土日のどちらかの練習には、各団体から指導者を派遣していただく。

- ・高校生との合同練習、大学生の指導など。